

□議員名：吉永美子

1 東日本大震災を初めとする被災地に対する支援の現状と今後の予定について

論点	2016 年には熊本地震、昨年は大阪府北部地震や西日本豪雨、台風 21 号や北海道胆振東部地震など災害が相次いでいるが、東日本大震災を初めとする被災地への支援について現状と今後の予定を聞く。
回答	東日本大震災の被災地支援としては、被災直後から人的支援や物的支援、義援金の募集、被災者の受け入れなどに取り組んできた。東日本大震災以後の災害においても、市職員を派遣し支援活動を行った。現在は職員による被災地への支援活動はなく、特に予定はないが、相互支援という観点からも、可能な状況であれば協力は惜しまないという心情については、理解願いたい。

2 藤田市長の目指す「協創」のまちづくりについて

(1) 市制 15 周年事業の取り組みについて

論点	協創のまちづくりを進める観点から、市制 15 周年事業にどのように取り組んでいくのか。
回答	記念事業については、式典同様、特段の位置づけをした取り組みはしないが、事業によっては 15 周年を機に、あるいは 15 周年を節目として実施することが望ましいといったものもあるので、それらについては前向きに、かつ柔軟に検討したい。一例として、第 8 回現代ガラス展については、15 周年記念事業としての位置づけをしている。

(2) 職員のモチベーション向上について

論点	昨年 3 月議会の答弁を踏まえ、この 1 年間、職員のモチベーション向上をどのように進めてきたのか。
回答	部長以下、次長、課長、課長級ということで課長ミーティング並びに課長研修を行っている。さらに段階的な目標設定や一人一人のワーク・ライフ・バランスの充実等も大切であり、そのことがまちに関する向上やスマイルシティの実現につながるよう、引き続き努力していきたい。

3 第 2 次総合計画に基づいた主要事業の推進について

(1) 環境展開催事業について

論点	昨年 6 月議会で、環境課だけでなく農林水産課も一緒になって取り組んではどうかと提言し、また、水道局と連携して同時開催を考えてはと環
----	--

	境課に申し出ていたが、他課との連携は進んでいるか。
回答	来年度は農林水産課とも連携して開催するという事で確認をしている。また、生活環境と非常にかかわりの深い水道展との合同開催についても、その方向で調整を進めている。関係部署の協力をいただきながら、環境問題のさらなる啓発に向けて進めていきたい。

論点	入場者数について目標設定を明記する考えはないか。
回答	環境問題については、小さなお子さんからお年寄りの方まで関係してくる部分もあるし、いろんな取り組みの中で展示等も行っているので、特に目標設定まではしていない。

論点	新たな取り組みとして、食品ロス削減の取り組みのアピールをもっと強めていく考えはないか。
回答	農林水産課とも連携するし、農林水産省も食品ロスの取り組みをしているので、その効果が出るのではないかと考えている。より充実した内容にはしたい。

論点	食品ロスを削減するために、家庭で余った食品を必要とする人に届けるフードドライブについて考えを聞く。
回答	山口県においても大体、毎日5万食分の食品ロスが発生しているといわれている。提案いただいたので、参考にさせていただきたい。

## (2) 若者会議推進事業について

論点	重点プロジェクトのうちの新規事業として、若者会議推進事業が始まることを歓迎しているが、その構想について聞く。
回答	若者の視点で本市の魅力やその発信方法等を検証してもらい、交流人口の増加等に向けた提案をしてもらうため設置するもので、山口東京理科大学の学生や経済団体、市役所の若手職員等20名程度で構成し、当面2年間の事業としているが、効果を定めながら事業の継続あるいは新手法の検討を行っていきたい。

(3) マタニティ・ブックスタート事業について

論点	重点プロジェクトの中の一つであるこの事業が、さらに発展していくことを願って、セカンドブック事業を提案するが考えを聞く。
回答	セカンドブック事業は、出生後の児童の成長段階に応じた絵本をプレゼントすることで、子どもの発達の段階にふさわしい有益な絵本に出会い、読み聞かせ習慣の継続を促進するもので、子供の健全な発達を促す大変有効な取り組みであると考えている。提案を参考にし、関係部署とも連携をしながら実施について検討していきたい。

論点	子ども医療費の未就学児までを対象とした国保の国庫負担金のペナルティが外されたことによる財源を活用して、セカンドブック事業をスマイルキッズで行ってはどうか。
回答	直近の出生率は大体 450 人ぐらいで推移をしており、仮に 1 人当たり 1,800 円程度の絵本を用意すると、おおむね 81 万円ということになり、国庫負担金相当額と同等額になるので、財源的には問題がないと思っている。

(4) ガラス文化推進事業について

論点	現代ガラス展と連携する取り組みとなるのか。
回答	この事業を展開していく中において、現代ガラス展開催のピーアールや充実をさせていく予定である。ガラス展サポーター制度についても、その周知を積極的に行うことにより現代ガラス展への関心の高まりや参画意識の向上を図っていこうと考えている。

論点	現代ガラスを頑張ろうという気持ちがあるのなら、きららガラス未来館をもっともっとアピールしてほしいと思う。入場者数が増えていない理由を分析しているか。
回答	分析している中では、小中学生の利用人数が若干減っているということもある。ガラス未来館も利用の増加を望んでおられるということで、このガラス文化推進事業については、ガラス未来館の方々と一緒に事業をやることによって、ガラス未来館のピーアールもしていこうという内容である。